

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500225		
法人名	医療法人相愛会		
事業所名	グループホームあつたか村	ユニット名	東館
所在地	宮崎県小林市大字北西方3251-2		
自己評価作成日	平成26年10月30日	評価結果市町村受理日	平成27年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanitrue&amp;liyosvoCd=4570500225-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanitrue&amp;liyosvoCd=4570500225-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成26年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内には園庭があり、季節の木々や花を見ながら散歩をする事やベンチが設置しており、そこでゆっくりとくつろいで過ごせる空間があります。事業所の行事等へ地域住民の参加もあり、御利用者や地域の方が楽しく過ごされる時間があります。また、近隣の保育園・小学校・中学校の生徒による慰問により、ふれあう時間があり、ゆっくり楽しく生活が出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの管理者・職員は、創設時に作られたこれまでの理念を見直し、全職員で地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、現状に合った理念作りに取り組み、意見の統一を図っている。理念を朝礼時に唱和することにより、利用者に関わる際に、理念を具体化していくことの意識づけができており、また、終礼時の唱和では、利用者との関わりでの対応を反省する機会ととらえて実践している。リビングの本棚には、地域の図書館から借りた絵本や物語本が置かれ、利用者や家族が自由に読書したり、利用者と職員とのコミュニケーションツールとしても利用している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員の意見を取り入れ、理念を掲げている。また、誰もがみれるように掲示板等へ掲示し、朝礼・終礼で唱和を行っている。	これまでの理念を見直し、管理者・全職員の意見を盛り込んだ理念を作成し、利用者への日々の言葉掛けや態度など、サービスの提供場面を振り返り、理念がケアに反映されているかを確認し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所が主催する行事の参加呼びかけや地域の集会への参加、防災訓練への参加をしてもらっているが、日常的な交流は少ない。	運営推進会議参加メンバーから、地域行事の情報をもらい、地域の行事に参加している。保育園児の来訪や小・中学生徒のボランティア訪問がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や近隣の小・中学生等のボランティア、職場体験の受け入れを行い、その際に理解を深めて頂いているが、地域住民への認知症の人の理解や支援方法については活かすことが出来ていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて事業所の取り組みについて報告が出来ており、会議の場において出た意見を、日々のサービス向上に活かしている。	会議は、利用者と触れ合いができる部屋で行っている。参加メンバーからの「遠方に住んでいる家族にも利用者の近況報告をしてはどうか」との意見を受け、利用者の近況報告や行事参加の写真等を届けて喜ばれている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外にグループホームの運営で困った時は、市町村の担当の方に相談している。また、事業所の行事参加を促し、日々の生活状況についても理解を深めてもらっている。	市担当者にはホームの行事や地域密着型事業所連絡会に参加してもらうなど、協力関係が図られており、気軽に相談できる体制がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行っており、身体拘束は行っていないが、具体的な行動を全職員が正しく理解していない。	新人職員には身体拘束の体験学習を行うなど、管理者、職員は身体拘束の内容とその弊害を認識している。利用者の安全を確保しつつ、自由な暮らしの支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者の状況に合わせ、現在のケアが虐待につながっていないか、全体会議の場で検討している。			

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員の学ぶ機会が少ないのが現状である。現在、これらの制度を利用されている方がおられる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、不安や疑問点などをお伺いし、納得頂いた上で契約を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や相談窓口を設けて、直接意見が聴ける雰囲気づくりを心がけている。相談等があった場合は、全体会議の場で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		日頃から利用者や家族が何でも言えるような雰囲気作りに心掛けている。家族から衣類に毛玉や傷みがあるなどの洗濯に対する苦情を受け、以後は洗濯用ネットを利用するなどの工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う全体会議の場で意見を聞く場を設け、必要に応じて反映されている。		代表者、管理者は、職員の意見や提案を聞く姿勢がある。利用者の受診の際、ホームの玄関から送迎車への移動時に雨に濡れないようにしたいとの職員の提案を受け入れ、屋根を設けてもらった経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し、個々の職場遂行が出来るような時間等の条件とし、各自が向上心を持てるような環境となっている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や他の研修等の案内を随時行い、参加を呼びかけている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会への参加を行っている。また、宮崎県グループホーム連絡協議会の研修会やブロック別研修会・交流会、小林市地域密着型サービス連絡会への参加を行い、ネットワーク作りを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまで本人や御家族と面会し、本人が困っていることや不安な事を聞き取り、安心して入居して頂けるように心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった場合は、家族の方と面談を行い、また、見学に来てもらい、不安なく入居して頂くようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人、ケアマネとの面談の場を設け、必要としている支援を見極め、対応出来るように取り組んでいる。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、洗濯物干しなど、日常的な作業を行ったり、個別な作業や散歩などを行うなど、会話出来る状況を作っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事がある時は参加の声掛けを行い、家族と過ごされる時間を設けたり、時間が許される限り、面会や外出・外泊の声掛けを行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時は、自宅にある馴染みの物を多く持ち入れられるように声掛けを行い、家族以外の馴染みの方が面会に来られるように家族に伝えている。また、馴染みの場所は、家族の協力を頂いている。	家族の協力を得て、墓参りや理・美容室に行ったり、初詣には利用者のなじみの金松法然参拝、お寺詣りを行っている。仕事仲間の来訪など、友人、知人との継続的な交流ができるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テレビ前にソファを置いたり、フロア内のいたるところにベンチを置き、利用者同士が一緒に過ごせるよう工夫している。			



自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族の方へ、契約終了時に他事業所との連携を図っている事を説明し、連絡が図れるように努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から、本人の希望や要望を聞き出し、可能な限り、本人の希望に添えるように努めている。		利用者には傾聴の姿勢で接し、話し方や動きを見ながら声かけを行ったり、一緒にお茶を飲みながら思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅等へ訪問し、本人との面談を行い、担当ケアマネや御家族より意見を頂き、把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録、状況チェック表などを利用して、全職員が把握できるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人と御家族、スタッフの意見を取り入れ、また、定期的な評価も行いながら、介護計画を作成している。		介護計画は、本人や家族との日々の関わりの中で思いや意向を聴き、全職員で意見交換、モニタリング、カンファレンスを行いながら、3か月ごとに定期的見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の実践状況を日々の介護記録に記入し、申し送り等を行い、見直しに活かしている。また、申し送りノートの活用も行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、受診介助や外出など対応している。また、特老や老健、病院とも連携を図っている。			

宮崎県小林市 グループホームあつたか村(東館)

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事にて、地域の方のボランティア、園児との交流を図り、楽しむ事が出来るようにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の他、本人及び家族の希望するかかりつけ医となっている。また、受診の際には御家族へ連絡を行い、職員も同伴している。	ホームの協力医のほか、本人及び家族が希望するかかりつけ医を支援している。受診や通院は家族同伴としているが、職員が同行することもある。受診に関する情報の共有を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	3名の看護師が勤務しており、日常的な健康管理を行っている。生活の中で気付いた情報や気づきを主治医へ報告し、必要に応じて受診等の連携を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医や医療機関との情報交換を行っている。また、入・退院の時期についても相談出来る関係作りが出来ている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医より助言を頂き、その都度御家族と話し合いを行い、方針の共有をしている。	「重度化した場合における対応に関わる指針、看取りケアの指針」により十分な説明を行い、家族や医療関係者と連携を図りながら、本人や家族が安心して納得した最期が迎えられるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応方法について、勉強会への参加をしている。また、連絡網を作成し、連絡体制を整えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練・通報訓練を実施している。また、近隣地域の方へ防災訓練の参加を依頼し、実際の避難誘導や消火器訓練等へ参加して頂いている。いきいきサロン等の集会時に、災害時における協力体制が頂けるようお願いしている。	職員メンバーに消防団員がおり、地域住民の参加協力を得ながら、定期的に避難訓練を行っている。避難経路、避難場所の確保、非常用備品の備蓄がある。		

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時、職員の教育は行っているが、排泄時の声掛けや拒否時の対応時に徹底されていない時がある。	職員は、利用者一人ひとりを年長者として尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。援助が必要な時も、自己決定しやすい言葉かけをするよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示がある方には選択する機会や希望を聞く機会を設けている事が少なく、意思表示がないご利用者に対して働きかけたり、自己決定の場を設けていない。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示をされるご利用者もおられるが、職員の都合で作業の手伝いを行っている時が多い。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が美容室に連れて行かれる利用者の方もいらっしゃいますが、衣類に関しては、意思表示のない利用者の方は、職員の都合で職員が選んでいることが多い。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の状況に応じて利用者と一緒に野菜の皮むき等を行ったりしているが、重度化している為、支援が少ない。	自分好みの醤油や佃煮などを常備している利用者もおり、食事への関心を高める工夫を行っている。利用者と同じテーブルで楽しく食事ができるよう支援しているが、職員は弁当を持参している。	食事は、食欲や栄養を満たすだけのものではなく、利用者と職員と一緒に同じ食卓を囲んで同じものを楽しく食べる環境作りに取り組むことを期待したい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一回の食事量が少ないご利用者には、複数に分けて食事をして頂いたり、水分チェックを行いながら、本人の好きな飲み物を準備し、水分補給が出来るようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯のある方はうがいと入れ歯洗浄を行っているが、入れ歯のないご利用者はうがい程度であるが、拒否が強いご利用者は出来ないことが多い。			

宮崎県小林市 グループホームあつたか村(東館)

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を使用しながら排泄パターンを把握し、時間誘導を行い、出来るだけ失敗無くトイレでの排泄が出来るようにしている。	職員は、排せつチェック表を利用しながら、利用者の排せつパターンを把握している。昼間はトイレでの排せつを大切にしながら、できるだけ布パンツを使用している。夜間は居室にポータブルトイレをしつらえるなど工夫をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、お茶ゼリーや水分調整、状況に応じ担当医に報告し、便秘予防に取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	便失禁時などはすぐに入浴できるように配慮しており、毎日時間に関係なく入浴できる体制は整っているが、時々業務の都合により、ご利用者の希望に添えない時がある。	利用者の希望やタイミングに合わせた入浴支援ができるように努めている。入浴を拒む人に対しては「ひげを剃りましょうか」「服を着替えましょうか」など、言葉かけの工夫や同性の職員が介助するようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の傾眠を少なくする為、個別に庭の散歩や軽い運動を行いながら、夜間安眠出来るように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服が処方された場合は記録に残し、処方箋をカルテに入れ、全職員が理解出来るようにしている。また、副作用や服薬中の注意点等も日々の申し送りにて看護師より申し送ってもらう事やノートを活用し、職員誰もが閲覧出来るようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ、テーブル拭き、ゴミ捨てなど、声掛けにて行って頂いている。意思表示がないご利用者などには、庭の散歩やボール遊びをするなどの支援をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に庭の散歩程度は行っているが、重度化している為、外出する事が少ない。	ホームの日当たりの良い敷地での散歩や洗濯物干し、取り入れなど、日常的に外気に触れる機会作りを行っている。桜やコスモスなど、季節の花見や家族の協力を得て墓参りなど、戸外へ出掛けられるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば購入してくるが、本人と一緒にいくことが少なく、所持させていない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴えがあった場合には、家族には連絡を行っており、家族から電話があった際も御本人に取り次ぎを行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには花を飾り、トイレには空気清浄器の設置やフローアに加湿器の設置を行っており、光や音に配慮しながら、台所前にテーブルを配置し、調理のにおいがするようになっている。	ホームの入り口には季節の花が植えられている。玄関には季節の花が飾られ、家庭的な置物や額が掛けられている。リビングには利用者目線に時計やカレンダーが掲示されており、本棚には絵本や物語本等が置かれ、利用者と職員のコミュニケーションツールとしても利用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローア内に椅子やベンチを設置し、個別にゆっくり過ごせるように工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持って来てもらうよう家族に声掛けを行い、家族の写真や置物を置いてあるが、本人が落ち着いて暮らせる工夫はされてない。	居室にはラジオカセットや置き時計、カレンダー、仏壇、神棚を持ち込まれている利用者もいる。利用者の一人は自作の俳句を職員に書いてもらい、居室の壁に掲示している。利用者一人ひとりがその人らしく、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フローアやトイレ、浴室など、手すりの設置を行っている。台所や洗面台は利用者の方に合わせた高さとなっている。			